

令和4年度 県立星陵高等学校 学校評価

4…よくできている 3…できている 2…あまりできていない 1…できていない

各項目ごとに平均をとり、その平均値について次の基準でA～Dの達成段階をつける。

平均値⇒達成段階 1.0≦x<2.0⇒D, 2.0≦x<2.8⇒C, 2.8≦x<3.5⇒B, 3.5≦x≦4.0⇒A

評価の観点	評価項目	番号	担当部署	実践目標	評価 4～1	A～D	自己評価	学校関係者評価	
確かな学力の 定着	BYODによる生徒1人1 台端末の授業等での活 用研究	1	教務	デジタル・シティズンシップ教育 の視点でBYOD環境にお ける学びを充実させる	3.0	B	今年度からBYODが始まり、技術的な指導が課題はあるが、前年度と比べ教員の 活用機会とともに、ICTの操作に慣れた教員も増加している。今後は、一層の環境 整備とともに生徒端末のサポートできる体制づくりが課題である。	ICT活用がかなり進んでいるようでとてもいいことである。今後、教科学習だけでなく、 特別活動の領域も活用発展させていってほしい。	
	観点別評価の実施、研 究と授業へのフィード バック	2		観点別学習状況の評価を実 践し、形成的評価の事例研 究を行う	2.9	B	教科の特性に配慮しながら観点別評価を定着させていく必要がある。また、形成 的評価を行うための授業デザインも求められる。今後は研修を行いながら、適切 な観点別評価に取り組む。	今年度から初の取り組みで技術的な指導・環境整備・生徒の端末へのサポートへの 体制づくりが重要と思われる。	
	授業研究の推進と授業 力の更なる向上	3		『個別最適な学び』協働的な 学び』をキーワードに、学習 者中心の授業実践・事例研 究を行う	3.0	B	生徒が主語になるような学習活動を展開できるようになるために、公開授業や先 進的な授業改善の取り組みを実施している他校の授業見学等、研修や情報交換 を行う必要がある。	公開授業をそれぞれが行うだけでなく、教師同士が協働して行ってはどうか。組 み合わせて違った視線で互いに学び合うこともできると思う。	
	生徒に家庭学習習慣を 確立させ、自立した学習 者に育てる指導	4		公開授業・研究授業を定期的 に実施すると共に、ICT機器 の活用などを通じて、生徒 個々の学力に応じた指導を 行う必要がある。	2.9	B	公開授業・研究授業を定期的 に実施すると共に、ICT機器 の活用などを通じて、生徒 個々の学力に応じた指導を 行う必要がある。	小学校中学校でGIGAスクールが進み、教師を放ってどんどん子どもで進んでい る。どう活用していくか。教科については勿論だが、特別活動等での活用はどうか。 コミュニケーションを広げていく力をどう培っていくかが問われている。	
進路指導・ キャリア教育 の充実	3年間を見通した進路指 導・キャリア教育の実施 と明確な目標の設定	5	進路 類型 学年	生徒面談による進路相談の 充実と、進路目標設定の支 援	3.2	B	面談を定期的 に実施すると共に、必要に 応じて個別の面談や三者面 談を実施し、生徒個々に 進路目標を明確に意識さ せながら学習に取り組ませ ることで、学習意欲の向 上を図る必要がある。	今の社会は不透明であり、だれも予測不可能なことが多い。しっかりネット等を含 め情報を集め、分析していく必要がある。同時に、生徒に「自分の将来を見通し て、自分で目標を設定し、どう学び、振り返り、責任をもって行動するののかの能力」 を身に付けさせていってほしい。	
		6		職業について考えさせる など、キャリア形成を支援 する 機会の充実	2.4	C	総合的な探究の時間とLHRを組み合わせ、長期及び短期の進路指導計画を進 路指導部・類型推進部と学年が連携して立てることにより、継続的・包括的な指導 を行う。また、関係機関やOBを活用しながら、幅広い視点に立ったキャリア教育 を行う。	定期的に生徒自身の自己分析の機会を設けて、自らの職業観と進路について考 えさせること。	
	進路講演会(含保護者) と高大連携の推進	7		生徒向け、保護者向け進路 講演会の計画的な実施	2.9	B	コロナ禍によりインターンシップ等の行事の多くが中止となった。キャリア教育に ついては、兵庫版「キャリア・パスポート」を活用するなどして切れ目のないキャリア 指導を行う。	培った力をどこに繋げるかがだと思ふ。こういったことがやられていないはずはない が、探究活動やその他の教育活動もそれが将来の何につながるのかという目で見 ることができるとしてやればキャリア形成に繋がると実感できるのではないかと 思う。	
		8		大学の研究者等による講 演会の実施	2.6	C	保護者会等の機会に進路講演会を2.3年生で実施。全学年とも進路についての話 や進路実績等の報告は実施できた。また、卒業生による講演会を実施する予定 である(3月)。今後は、進路講演会の講師や内容も検討しながら適切な時期に実 施したい。	卒業後の進路先の検討とともに、その先の職業選択についても早い段階から意 識させること。	
	生徒・保護者への適切 な進路情報の提供	9		学年集会、保護者会等を活 用しての情報提供	2.9	B	コロナ禍の影響もある中、保護者会については日程の変更を行いつつ執り行 うことができた。今後は、コロナの影響を見極めながら、適切な時期に学年集 会や保護者会を行うことで、学校からの情報発信と相互の信頼関係の醸成に努 めていく。	コロナ禍の影響を見極めながら、集会等を通じて情報発信に努めてもらいたい。	
	コロナ禍の中での国際 教育や体験型教育活動 の推進	10		大学や企業等の訪問や講 演会、体験授業への参加 機会の提供充実	2.6	C	Spring-8の見学を始め、コロナ禍ではありながらも専門機関との一定の連携を取 ることができた。今後は、講演会や体験授業への生徒参加を一層進めて適切な キャリア観の育成に努める。	職業選択について、折に触れて考え、どのような知識・経験が必要かを自ら考 えさせることが、将来的によりよい進路先、職業選択につながることを理解さ せることなどによる意識付けを徹底することが効果的だと考える。	
生命科学類型 の充実と探究 活動の充実	生命科学類型の教育活 動の更なる充実	11	類型	探究活動の指導の充実	2.7	C	研修等を通じて教員のスキルアップに努めながら、探究活動に関する指導の充 実や質の向上に努める。	生命科学類型はどんどん進化しているよううれしく思う。このような取り組みの 方向を全校に広げていってほしい。	
	探究活動の充実と理数 探究の教育内容の充実	12		2学年を中心とする探究活 動の充実および理数探究の計 画と理数探究基礎の実施	2.7	C	職員間の共通理解を図りながら3年間を見渡した探究活動のビジョンを構築し、 適切な探究活動の指導と生徒の意欲向上を図る。	今、多くの企業は、SDGsを中心に据えて事業展開している。SDGsやグローバ ルな資質育成をテーマとした取り組みもどんどん考えていってほしい。	
意思統一が図 られた生徒指 導と 安全教育の徹 底	挨拶と学習生活にふ さわしい身だしな みの指導	13	生徒 学年	私服と標準服の着なしの 指導の徹底	2.3	C	始業式・終業式等においては標準服着用徹底を行うと共に、生徒会を中心とし ながら私服のあり方について考えさせる。	HR活動の中で自分たちで考えさせたら良いのではないかと。星陵はそれができ る学校だろう。地域に住んでいる者はそのなかに気になっていない。良い悪いとは思 っていない。自由な気風の括りの一つだと考えている。地域にも言う人の中にはい ろいろな人がいる。	
		14		時と場合に応じた挨拶の 指導と時間厳守の習慣づけ	2.5	C	今年度は試験的にノーチャイムに取り組み、時間順守の意識向上を図った。最上 位目標である自律・自考の実現に向けて、今後も様々な啓発活動に取り組んでい く。	自分というものがあれば良い。誰かと一緒に横並びではなく自分がしたいことを 思っている。パワーや個性を発揮できる生徒が少ないように思う。自分の意見や 発想を持って人と一緒にできるところが星陵の生徒らしい。枠にはめなくても良い のではないかと。発展させていけるだけの発想力があるのが星陵の生徒だろう。	
		15		登下校時の通学マナー・ 交通ルールの遵守	2.6	C	時期をとらえた生徒へのマ ナー向上の啓発指導の実施	生徒会を中心とした自主的なマナー向上の取り組みについて検討していく。	生徒会中心のマナー向上の取り組みに期待したい。
		16		スマホ・携帯等の適切 な使用の指導徹底	2.6	C	SNSの適切な使用につい ての指導の徹底	始業式や終業式を始め、年間を通して定期的な指導の場を設けると共に、生徒 会を通じた自主的な取り組みについても検討していく。SNSについては、日常の指 導の中で、SNS等では犯罪加害者になる可能性があることを特に理解させる。	SNS上の情報の氾濫に対する選別力、判断力を身に付けてほしい。
部活動の充実	ノー部活動デーの実 施による部活動の適 切な目標設定と効果 的・効率的な練習の 確立	17	生徒	部活動ごとのノー部活 動デーの設定と実施	2.5	C	生徒の健康や適切な学習時間の確保を図りながら、無理のない持続的な部活 動の実施に取り組む。	生徒の健康や適切な学習時間の確保を図りながらノー部活動デーを設定し、無 理のない持続的な部活動の実施をしてほしい。	
		18		効率的な練習と下校時 間の厳守	2.4	C	部長会において下校時刻の徹底を指導するとともに、下校時刻10分前に放送 をかけ、下校時刻前には学校を出るよう指導を継続する。	評価表を拝見して感じることに、実践目標に取り上げられている事項のなかで、 生徒に全てを任せて実践、改善等を図り、その結果を生徒が検証し、継続する といったことができないかなと思うことがある。	
清掃の徹底	日々の清掃指導の徹 底、改修されたトイレ の美化維持	19	総務	各清掃監督による指導 の徹底	2.7	C	清掃区域の適切かを図りながら、丁寧な掃除の指導を行うことにより、校内 の一層の美化に努める。	丁寧な清掃指導により美化に取り組んでほしい。	
	定期的・効果的な校 舎内外の清掃の実 施	20		ふるさと貢献活動と結 びつけた地域清掃 の実施	2.6	C	コロナによる影響を注視しながら、地域と連携した清掃に取り組む。	地域との連携で地域美化に努める。各部活動の特性を活かし地域貢献活動の 促進をはかってほしい。	
積極的な情報 発信	HPのタイムリーな更 新と学年通信等の配 布	21	類型 学年	行事ごとの速やかな 情報発信	2.8	B	ホームページを通じた速 やかな情報発信に取 組む。	大変だとは思いますが、HPがもう少し魅力的にしてほしい。	
		22		学校紹介プレゼン等 のHPへのアップ	2.6	C	ICT委員会を中心にHP 作成チームを作るなど して、組織的にホーム ページの運営に努 める。	早い情報発信に努めてほしい。	
		23		定期的な学年通信の 発行や家庭向けメ ールを活用した情 報発信	3.0	B	定期的な学年通信を発 行すると共に、Google Classroomを通じて 生徒に感想文を提 出させるなどICTを 活用することにより、 学年通信やHPの迅 速な発行や掲載に 努める。	楽も合せて活用してほしい。	
	授業公開週間の実施	24	総務	授業公開(保護者・一般 向)の円滑な実施	2.9	B	今年度は、各公開授業実施の際に課題を設定して実施すると共に、伊川谷北高 校との相互の授業見学も実施した。今後は、授業公開の期間設定や回数につ いてさらに検討していく。	教員同士の研鑽にいつそう努めてほしい。	
オープン・ハイ スクールの充 実		25	類型	生命科学類型説明会 の充実	3.0	B	コロナ禍の下、感染症 予防のために教室にて オンラインで実施。夏 のOPHは、2部構成 で1日実施した。生 徒による学校紹介、 校内・部活動案内、 質問対応などが実 施でき、参加者に好 評であった。気象警 報などが出された際 の対応策が課題で ある。	類型の情報発信にも頑張してほしい。	
		26		授業公開や校外での 学校説明会などの 広報活動の充実	3.0	B	中学校や塾に赴き、対 面で実施した。また、 淡路地区でも学校説 明会を実施した。学 校紹介ビデオの更 新に向け、準備をす ずめていく。	うわさプロジェクトのように、今後も生徒が地域に出て、触れ合って、課題の 解決に協力してもらえればありがたい。	
ふるさと貢献 活動の充実	学校周辺の清掃をは じめ各種ボランティア 活動の推進	27	生徒	地域清掃の実施	2.8	B	コロナ禍で十分できて いなかったが、地域と も連携をしながら地 域美化に協力をし ていく。	優れた学校が地域住民の誇りになる例は少ないと思う。星陵台地域の住民に とってこの地区に星陵高校ありと誇らしく思う存在であってほしい。	
	地域課題をテーマと した探究活動の推 進	28		部活等による地域貢 献活動(施設訪問、 スポーツ教室等)	2.6	C	ラグビーや剣道等の種 目を通じて地域貢 献活動に努める。ま た、今年度は高齢 者介護施設におい て、コーラス部が 発表を行ったり、 部活動有志が餅つき 大会等に参加した。 今後は地域施設と の連携を深めてい く。	地域への飛び込み機会を多くしてはどうか。ネタ探し、計画、実働、反省、加 えてPRを兼ねた外部への報告等、生徒自らで実践する。生徒としての枠にと られず社会人としての自律・自考を促すことも学業への好影響になるように 思う。	
特別支援教育・ 命と心の教育 の充実	特別支援教育委員 会の効果的開催	29	生徒	生徒の状況について 職員間の情報共有	2.9	B	各学年保健係、特別 支援コーディネーター、 養護教諭で会議を 実施することで、 学年外の情報を共 有することができ た。来年度も継続 して会議を実施し ていきたい。	教員同士の情報共有をいつそう進めてほしい。	
	教育相談と各学年 が連携した細やかな 指導の実施	30		キャンパスカウンセ ラーとの密な情報 共有と細やかな 生徒、保護者対応	3.2	B	教育相談後、担任も 交えてコンサルティング を行うことで、生 徒情報の共有と対 応の助言を得た。 今後はキャンパス カウンセラーと連 携しながら、生徒 対応に取り組む。	キャンパスカウンセラーと連携しながら、しっかりと生徒対応に取り組んで ほしい。	
	命の大切さや思いや りの心の教育推進	31		人権ホームルーム の充実と講演会 等の実施	2.4	C	担当と学年が連携し、 年間計画を立てな がら、適切な人権 学習を実施する。	教員同士で連携を図りながら、人権の課題に計画的に適切に取り組んで ほしい。	
勤務時間の適 正化	定時退勤日とノー 部活動デーの推 進	32	教頭	定時退勤日の実施	2.0	C	ノー残業デー・ノー 部活動デーは、各 教職員各部活動 単位で設定してい る。また、ノー 会議デー(放課後) を毎週1回火曜日 に設定している。 今後は、ワーク ライフバランスの 視点に立ち、各 教員へのいっ そうの意識づけ が必要である。	教員がワークライフバランスを意識する事が大切だと思うので、しっかりと意識 付けをはかってほしい。	
	ICTの効果的な活 用による各種会議 の時間短縮の推 進	33		Garoon, Teams等、 ICTを活用した 業務改善	3.1	B	Garoonの掲示板 やルートを活用し て、Teams等の機 能を活用しながら、 資料の掲載や 意見集約を行う などして、会議、 打合せの効率化 を図りながら、 情報共有がす ずむしくみづ りをする。	ICTをしっかりと活用して業務の改善に取り組んでほしい。	
	ICTの効果的な活 用による校務の 効率化の工夫	34		Google Formや文 書サーバーの 活用推進	2.9	B	Google Form等 を活用してアン ケート等の意見 集約に活用し 業務の効率化 を図る。	業務の効率化にいつそう取り組んでほしい。	